

令和4年1月31日

保護者様

令和3年度佐賀県学習状況調査の実施結果について（概要）

基山町立若基小学校
校長 本村 一浩

昨年の12月1日(水)と2日(木)に小学校4・5・6年生を対象に、「令和3年度佐賀県学習状況調査」を実施しました。今年度分の調査結果の概要をまとめましたのでお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1. 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、佐賀県の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況を把握するための教科に関する調査を実施

☆4・5年生は、国語・算数を実施

☆6年生は、国語・社会・算数・理科を実施

3. 教科（領域）ごとの調査結果の概要

【4年生正答率】

	国語	算数
若基小学校	60.4	57.4
佐賀県	58.5	47.6

○国語の調査結果概要について

- ・国語全体については、県平均とほぼ同程度である。
- ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」については高い結果となった。
- ・中心となる語や文を見つけて要約したり、段落相互の関係に着目しながら内容を把握したりすることについては課題が見られた。

○算数の調査結果概要について

- ・算数全体については、県平均より相当高い結果となった。
- ・「数と計算」の領域については、県平均より相当高い結果となった。
- ・割合を求めたり、文章問題を理解し立式したりすることについては課題が見られた。

【5年生正答率】

	国語	算数
若基小学校	60.9	50.6
佐賀県	58.4	42.3

○国語の調査結果概要について

- ・国語全体については、県平均よりやや高い結果となった。
- ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」については高い結果となった。
- ・資料から必要な語句を引用したり、文章全体の構成を捉え、要約したりすることについては課題が見られた。

○算数の調査結果概要について

- ・算数全体については、県平均より相当高い結果となった。
- ・「測定・変化と関係」の領域については、県平均より相当高い結果となった。
- ・水の体積を求めたり、図形の描き方を説明したりすることについては課題が見られた。

【6年生正答率】

	国語	社会	算数	理科
若基小学校	64.4	66.1	49.4	80.3
佐賀県	66.1	64.6	46.1	79.5

○国語の調査結果概要について

- ・国語全体については、県平均より少し低い結果となった。
- ・「読むこと」については、県平均より高い結果となった。
- ・文章の構成を考えたり、目的に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることについては課題が見られた。

○社会の調査結果概要について

- ・社会全体については、県平均とほぼ同程度である。
- ・「我が国の歴史」の内容については、県平均より高い結果となった。
- ・事象が起こった理由を説明したり、事象と人物の関係を理解したりすることについては課題が見られた。

○算数の調査結果概要について

- ・算数全体については、県平均よりやや高い結果となった。
- ・「データの活用」と「変化と関係」の領域については、県平均より高い結果となった。
- ・計算の仕方を説明したり、理由を記述したりすることについては課題が見られた。

○理科の調査結果概要について

- ・理科全体については、県平均とほぼ同程度である。
- ・「物質とエネルギー」の内容については、県平均より高い結果となった。
- ・浸食の言葉の意味や水溶液の重さの性質の理解については課題が見られた。

【調査結果全体を振り返って】

4～6年生において、ほとんどの教科が県平均と同程度か県平均より高いという結果になりました。児童に身に付けさせたい資質能力のうち「知識・技能」については、5年生の国語、6年生の国語と理科が若干、下回っていましたが、ほとんどの教科で県平均を上回っており、基礎・基本が定着している児童が多いことが分かります。「思考・判断・表現」については、6年生の国語以外は県平均を上回っていました。授業中に目的や意図に応じて書く活動に取り組んできた結果、個人差はありますが、少しずつ、問われている内容に沿って自分の考えを表現することができるようになってきたと考えられます。

また、どの学年においても無回答率が低く、問題を解決しようと最後まであきらめずに取り組む姿勢が身に付いている児童が多いことが分かりました。

今後、さらなる基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の向上に向けて、分析結果を有効に活用し、各学年での指導の工夫改善に取り組んでいきます。児童が主体的に学習に向かい、達成感を味わえるような授業づくりを行ったり、児童の伸びをしっかりと認めていったりすることで、児童の学習意欲の向上につなげ、確かな学力を育てていきたいと考えております。